

病害虫情報(第7号)10月予報

令和6年9月30日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 10月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、カキ、抑制トマト、促成トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ネギ、キャベツ、ダイコン】
- II 10月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 9

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和6年9月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 10月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
縞葉枯病	—	—	◆ 9月調査では、縞葉枯病の発生は平年よりやや多い。媒介虫のヒメトビウンカの越冬場所を減らすため次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	△	◆ スクミリンゴガイの生存率を下げるため次の対策を実施する。 ①冬期に水田を複数回耕起すると殺貝効果が高い。耕うん深度は6cm程度の浅起こしで効果が高い。深く耕うんすると生貝を深く埋め込んでしまい、防除効果が低下する恐れがある。耕うんは走行速度を遅くし、ロータリーの回転を速くして浅く細かく耕す。 ②用排水路で生存している貝の対策として泥上げを行う。地区全体で実施すると効果が高い。 ③休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。 ④未発生水田への貝の持ち込みを防止するため、トラクターなどに付着した泥は使用後に洗浄する。他水田でも使用する場合は、未発生水田の耕起を先に行うなど順番を考慮する。
ナガエツルノゲイトウ	—	△	【雑草茎葉散布】 ラウンドアップマックスロード 水田畦畔 [前日(雑草生育期),3回] 200~1,000mL/10a 水田刈跡 [雑草生育期,1回] 500~1,000mL/10a 等 ◆ 本田内で発生が確認された場合、降霜前までに除草剤で枯死させた後に耕うんする。使用した機械は茎の断片が残らないように洗浄する。 ◆ 特定外来生物に指定されており、外来生物法により栽培、保管、運搬、譲渡、放出、植栽等が禁止されている。疑わしい雑草はその場から動かさずに農業技術センター又は最寄りの農協まで連絡する。 ◆ 詳細は以下の防除対策資料を参照すること 世界最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」に警戒を！ https://www.pref.kanagawa.jp/documents/88221/r6nagaeboujyo.pdf

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 果実肥大: やや小(足柄地区事務所: 普通温州)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
ミカンハダニ	やや少	○	オマイト水和剤 みかん: [7日, 2回] 750倍 みかんを除くかんきつ: [14日, 2回] 750倍 等 ❖ 収穫果を長期貯蔵する場合は防除が重要である。
カメムシ類	多	○	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 ロディー乳剤 [7日, 4回] 2,000倍 等 ❖ 特に山際の園地などでは発生に注意する。薬剤散布後も飛来が見られる場合は、必要に応じて追加防除を行う。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ナシ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒星病	並	○	(予) オキシラン水和剤 [3日, 9回] 500~600倍 等 ☞ オキシラン水和剤は混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 休眠芽への感染時期になるので、防除を徹底する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【カキ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
カメムシ類	多	△	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 テルスターフロアブル [3日, 2回] 3,000~6,000倍 等 ❖ 山際の園ではカメムシの飛来に注意する。発生が見られたらただちに防除する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント								
葉かび病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] うどんこ病: 1,000～2,000倍、葉かび病: 1,000倍								
うどんこ病	—	○	(予・治) カンタスドライフロアブル [前日, 3回] 葉かび病: 1,000～1,500倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日, 2回] うどんこ病: 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) エコピタ液剤 [前日, —] うどんこ病: 100～200倍 (治) ベミデタッチ [前日, —] うどんこ病: 500倍 等								
アブラムシ類	並	○	ベストガード水溶剤 [前日, 3回] 1,000～2,000倍 デアナSC [前日, 2回] アザミウマ類: 2,500～5,000倍、コナジラミ類: 2,500倍								
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	グレーシア乳剤 [前日, 2回] コナジラミ類、アザミウマ類: 2,000倍								
アザミウマ類	並	○	マッチ乳剤 [前日, 4回] コナジラミ類: 2,000倍 アザミウマ類: 1,000～2,000倍 エコピタ液剤 [前日, —] アブラムシ類: 100倍、コナジラミ類: 100～200倍 ベミデタッチ [前日, —] コナジラミ類: 500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 等								
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。								
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類	TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類										
TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類										
TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類										
			<ul style="list-style-type: none"> ❖ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クレスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ❖ 本ぽでは、施設出入口に0.4mm目合い以下の防虫ネット等を2重被覆する。 ❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 								

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
アブラムシ類	並	○	<p>【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1~2g/株 ☞ 定植時までの処理は、1回以内とする。 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株</p> <p>【育苗期:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000~3,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 ベミデタッチ [前日,-] コナジラミ類:500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。</p> <p>❖ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期の害虫防除を徹底する。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>❖ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。</p> <p>❖ 本ぼでは、施設出入口に0.4mm目合い以下の防虫ネット等を2重被覆する。</p> <p>❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。</p> <p>❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。</p> <p>❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。</p>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○													
アザミウマ類	並	○													

等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	やや少	○	(予) アリエッティC水和剤[前日,3回] 400~800倍 ☞ アリエッティは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,3回] 1,000倍 (予・治) ゴーベックエンテクタSE [前日,2回] 4,000倍 等 ☞ ゴーベックエンテクタSEは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 草勢低下と夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。										
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予) ボタニガードES [発病前~発病初期,-] 1,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 等										
褐斑病	並	○	(予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予) アリエッティC水和剤[前日,3回] 400~800倍 ☞ アリエッティは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) カンタスドライフロアブル [前日,3回] 1,500倍 等 ◆ 多湿状態で施設を密閉すると蔓延しやすく、夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。										
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍										
オンシツ コナジラミ	並	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ、アブラムシ類: 1,000~2,000倍										
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	アフーム乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍										
アブラムシ類	並	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ボタニガードES [発生初期,-] 1,000倍 等										
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。										
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
			◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。										
			◆ 本ほでは、施設出入口に0.4mm目合い以下の防虫ネット等を2重被覆する。										
			◆ 近年、抑制キュウリで黄化えそ病の発生が増加傾向にあるため、青色粘着板を設置し、アザミウマ類の発生消長を把握すると良い。										
			◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。										
			◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) ボタニガードES [発病前～発生初期, -] 1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 (治) サフオイル乳剤 [前日, -] 300倍 (予・治) モレスタン水和剤 [前日, 2回] 3,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシシAL水和剤 [収穫開始14日, 3回] 1,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日, 3回] 3,000～4,000倍 等 ❖ サフオイル乳剤、モレスタン水和剤は、軟弱徒長株に使用すると薬害を生じるおそれがある。
アブラムシ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 2回] 2,000～4,000倍 バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] 2,000～4,000倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍 サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 ボタニガードES [発生初期, -] 1,000倍 等 ❖ サフオイル乳剤は、軟弱徒長株に使用すると薬害を生じるおそれがある。
アザミウマ類	—	○	ディアナSC [前日, 2回] 2,500～5,000倍 マッチ乳剤 [前日, 4回] アザミウマ類:1,000～2,000倍 ハスモンヨトウ:3,000倍
ハスモンヨトウ	多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 2回] アザミウマ類:2,000倍 ボタニガードES [発生初期, -] アザミウマ類:1,000倍 等
ハダニ類	—	○	スターマイトフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 ボタニガードES [発生初期, -] 1,000倍 等 ❖ 育苗期のハダニ類を本ぼへ持ち込まないように定植までに防除を徹底する。 ❖ サフオイル乳剤は、軟弱徒長株に使用すると薬害を生じるおそれがある。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:モレスタン(3日)、ディアナ(3日)、ポリオキシシ(1日)、モスピラン(1日)、ボタニガードES(1日)、バリアード(1日)、スターマイト(翌日)

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ネギ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
さび病	並	○	(予) ヨネボン水和剤 [7日,4回] 500倍 (予・治) ラリー水和剤 [7日,3回] さび病:2,000倍
黒斑病	並	○	(予・治) ポリオキシンAL水和剤 [14日,3回] 黒斑病:1,000倍 等 ❖ 発生初期の防除を徹底する。 ❖ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	並	○	カスケード乳剤 [14日,3回] 4,000倍 ファインセーブフロアブル [3日,2回] アザミウマ類:1,000~2,000倍
シロイチモジヨトウ	多	○	トルネードエースDF [14日,2回] シロイチモジヨトウ:1,000倍 コテツフロアブル [7日,2回] シロイチモジヨトウ:2,000倍 等 ❖ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【キャベツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒腐病	並	○	(予) Zボルドー [-,-] 500~1,000倍 (予) ヨネボン水和剤 [7日,5回] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 等 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 強い降雨の後には、予防散布を行う。 ❖ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。但し、汚れをおこすため収穫間際の使用は控える。
菌核病	—	○	(予・治) アミスター20フロアブル [7日,4回] 2,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [3日,2回] 1,000~1,500倍 等
コナガ	並	○	アファームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ:1,000~1,500倍 ☞ アファームエクセラは混合剤である。総使用回数に注意する。
ヨトウムシ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ (ヨトウガ)	多 並	○ ○	トルネードエースDF [7日,2回] コナガ:1,000~2,000倍、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ:2,000倍 カスケード乳剤 [7日,2回] 2,000~4,000倍 等
オオタバコガ	やや多	○	❖ 大型チョウ目害虫では、結球内に潜り込んだ幼虫には薬剤の効果が劣るので、結球前までの防除を徹底する。
ネギアザミウマ	並	○	ハチハチ乳剤 [14日,2回] アザミウマ類:1,000倍、アブラムシ類:1,000~2,000倍
アブラムシ類	並	○	アファームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] ネギアザミウマ:1,000倍 ☞ アファームエクセラは混合剤である。総使用回数に注意する。 モスピラン顆粒水溶剤 [7日,5回] 2,000~4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和6年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ダイコン】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
白さび病 (ワッカ症)	—	○	(予) ヨネボン水和剤 [7日,4回] 白さび病:500倍 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,2回] 1,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [30日,1回] 2,000倍 等
アブラムシ類	並	○	ハチハチ乳剤 [30日,1回] 2,000倍 ダントツ水溶剤 [7日,2回] アブラムシ類:2,000~4,000倍
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)	やや多	○	アファームエクセラ顆粒水和剤 [14日,3回] ハイマダラノメイガ:1,500倍 ☞ アファームエクセラは混合剤である。総使用回数に注意する。 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),—]
ナモグリバエ	—	○	ハイマダラノメイガ:1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月)

神奈川県農業技術センター

II 10月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 10月の気象予報(気象庁9月24日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	30%	60%
降 水 量	20%	40%	40%
日照時間*	50%	30%	20%

*9月19日発表1か月予報による。

(2) 10月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年並(±)、慣行防除区で発生が平年より少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝葉での発生は平年並(±)、短果枝葉での発生は平年よりやや少ない(－)。 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
果樹全般	カメムシ類	少	多	1) 巡回調査では、カキでの被害果の発生は平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、カキでの被害果の発生は見られず、平年よりやや少ない。(－) 3) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、伊勢原、南足柄、県予察ほ(根府川)のいずれにおいても、平年より多い。(＋) 4) 予察灯へのチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺数は、伊勢原、山北、県予察ほ(根府川)のいずれのおいても平年より多い。特に、9月1～20日までのツヤアオカメムシ誘殺数は、伊勢原で49,358頭(平年1,829.6頭)、県予察ほ(根府川)で3,282頭(平年766.9頭)と、それぞれ平年の27倍、4.3倍となっており、非常に多い。(＋) 5) ヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘数(県西部5地点調査)は、カメムシがヒノキから離脱する目安とされる25本/果実を、8月上旬に超えており、離脱時期は平年の9月下旬より早い。(＋) 6) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
抑制トマト 促成トマト	タバココナジラミ	少	やや多	1) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 抑制キュウリの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 青色粘着板(平塚、大磯)への捕殺虫数は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマともに平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
抑制キュウリ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	褐斑病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は確認されず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 青色粘着板(平塚、大磯)への捕殺虫数は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平均よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ネギ	さび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	黒斑病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	シロイチモジヨトウ	少	多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原、県予察ほ(上吉沢)ともに平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
キャベツ	黒腐病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦と伊勢原では平年並(±)、横浜では平年よりやや少ない(－)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年より少ない(－)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ネギアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
ダイコン	ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)	少	やや多	1) 巡回調査では、キャベツでは発生が平年より多く、ダイコンでは発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)の誘致花(クレオメ)への寄生は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和6年・第7号・10月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
野菜全般	アブラムシ類	—	並	1) 巡回調査では、抑制キュウリと抑制トマトでは、寄生は見られず、発生が平年並(±)、キャベツでは、発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 県予察ほの黄色水盤への飛来量は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年より少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	ヨトウムシ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ(ヨトウガ)	— —	多 並	1) キャベツの巡回調査では、ヨトウムシ類の発生が平年よりやや多い。(+) 2) ネギの巡回調査では、ヨトウムシ類の発生が平年より多い。(+) 3) ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、三浦、伊勢原では平年よりやや多く、横浜、県予察ほ(三浦、上吉沢)で平年より多い。(+) 4) ヨトウガの県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年よりやや少なく、三浦では平年より少ない。(－) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	オオタバコガ	—	やや多	1) キャベツの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜では平年よりやや多く(+)、伊勢原では平年並(±)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢、三浦ともに平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
 「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回